



建造物群 (B)
中部二科会 田村一男
(大垣市中川町)

美濃加茂通信局
〒505-0034
美濃加茂市古井町下古井652
0574 (25) 7788
Fax (25) 7669

可児通信部
〒509-0214
可児市広見2-16
0574 (62) 1501
Fax (61) 0270

関支局
0575 (22) 3234
Fax (24) 3939
多治見支局
0572 (22) 3121
Fax (23) 5331

ギフトに、
お土産に
詰め合わせ各種ございます



「我田の森」整備20年大賞に

可児市久々利の里山を拠点に活動する自然保全ボランティア団体「里山クラブ可児」が、日本自然保護協会の「日本自然保護大賞」の教育普及部門で大賞を受賞した。荒廃していた里山の整備に二十年間取り組み、森のようちえんや大学、行政や企業などと連携して多彩な活動を展開していることが評価された。

(織田龍穂)

団体は二〇〇〇年に設立。〇 耕作放棄されていた棚田を再生二年から久々利の「我田の森」し、多様な生物が生息できる田で活動する。東京ドーム二・八 ンぼピオトープとして維持。親個人の広い敷地内は当初、作業 子向けの稲作体験や生物観察な道一本以外はほとんどが草木で どの環境教育も推進する。覆われており、会員らで一鈴ず 森のようちえんでは延べ千三つ地道にささ刈り。開けた場所 百人以上の親子が子育てに利用。駐車場や間伐材を使った小 業の社会貢献活動、里山体験ツール林に指定された。一五年にはだ。

現在、会員は約五十人。市内だけでなく瑞浪市や多治見市、愛知県稲沢市など近郊のメンバーが所属するほか、最近若者の新加入もあった。名城大都市情報学部二年の稲垣さやかさん(二)は授業をきっかけに里山保全に興味を持ち、より深く学ぼうと参加した。「きれいになった今の里山の姿だけでなく、整備の大変な面についても知り、関わっていきたい」と話す。

十三日には大鹿広光代表(セ)らが東京での記念シンポジウムに参加。活動の紹介動画も活用しながら里山の大切さについてPRした。大鹿代表は受賞について「非常に名誉なことでありがたい。より多くの人に里山の良さを知ってもらえるよう、さらに活動に励みたい」と意気込んだ。

二一年度の日本自然保護大賞には全国から百一件の応募があり、保護実践、教育普及、子ども・学生の三部門からそれぞれ大賞が選ばれた。可児市からは「大森奥山湿地群を守る会」も入選した。東京でのシンポジウムの様子はYouTube QRコードで見られる。

里山クラブ可児 日本自然保護大賞・教育普及部門

大学や行政、企業と多彩な活動



大賞受賞を喜ぶ里山クラブ可児のメンバー＝可児市久々利の「我田の森」で

QRコードで見られる。